

2017年度（平成29年度）

入学試験要項

公募制自己推薦（A O型）

※経済学部（経済学科 K-ENT3）を除く。

※社会人特別選考入学試験で

文学部（中国文学科）、法学部（法律専攻・政治専攻）、
経済学部（経済学科・経済ネットワーク学科・経営学科）を含む。

◎試験当日は、この「入学試験要項」を必ず持参してください。

文 学 部

神道文化学部

法 学 部

経 済 学 部

人間開発学部

もっと日本を。もっと世界へ。



KOKUGAKUIN Univ.

國學院大學

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

総合企画部入学課

☎ 03-5466-0141

www.kokugakuin.ac.jp

目 次

1. アドミッション・ポリシー(入学者の受け入れ方針)	1
2. 募集人員・出願資格等	4
3. 通学キャンパス・授業時間帯(平成28年度参考)	6
4. 実施スケジュール	8
5. 受験から入学手続まで	9
6. 入学試験要項	10
7. 出願書類について	32
8. 入学志願票記入例	35
9. 入学検定料	37
(1) 入学検定料の振込について	
(2) 大規模災害等にかかる平成29年度入学志願者に対する特別措置について	
10. 学費等納付金	38
(1) 学費等納付金について	
平成28年度学費等納付金額(参考)	
(2) フレックスコースの学費等納付金について(神道文化学部)	
11. 入学前学習講座	39

【注 意】

1. 出願資格・受付期間・試験科目等について、事前に熟読してください。
2. 身体機能の障がいや疾病等により、受験・就学に際して配慮を必要とする場合は、出願する30日前までに必ず入学課(03-5466-0141)に連絡してください。

個人情報の取り扱いについて

國學院大學では、「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努め、安全管理のために必要な措置を講じています。志願にあたって提出された個人情報については、入学志願票の「個人情報の取り扱いについて」をお読みください。

1. アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

※アドミッション・ポリシーについては、本学ホームページでもご確認ください。

文学部

【日本文学科】

日本文学科は、本学ならびに本学部が定める教育方針に基づき、日本文学・日本文化への専門的な学びをふまえて、日本人としての主体性を保持した寛容性と謙虚さを身につけ、日本文化を世界に創造的に発信することのできる人材の育成を目的とする。その大きなテーマを「古典作品が読める國學院生」とし、以下の育成の目的を掲げる。

- ①日本語の基本的運用能力を身につける。
- ②日本文学・日本文化に対する理解を深める。
- ③専門的な観点から日本文学・日本文化の研究を通して新たな文化創造に参加する。
- ④日本文学・日本文化の創造的発信を行う。

これらによって、主体的な意欲と能力を持つ人材を育成する。

以上の目的を実現するために、本学科および他の諸学部・学科が開設する授業・各種プログラムに主体的に参加し学修しようとする意欲が求められる。したがって、高等学校での「古典」科目の学習を十分にしておく必要がある。また世界や日本の文化・歴史についての基礎知識や、研究成果を外国へ発信する準備としての「英語」の学習も十分にしておくことが望まれる。

【中国文学科】

高校生活あるいは卒業後の生活の中で、中国の文化や文学の学修に興味・関心を持ち、大学での勉学に明確な目的意識と高い意欲を持つ学生を迎え入れ、活気ある創造的な学問の場を創ることを目指す。高校までの学修では、国語においては古文・漢文の基礎をしっかりと身につけ、世界史においては中国の歴史について、日本史においてはわが国と中国との関係や文化交流について、十分な知識を身につけていることを望む。

【外国語文化学科】

外国語文化学科の目的は、高い外国語能力を持ち、異文化の総合的理解と日本文化の創造的発信を行う人材を養成することである。すなわち、

- ①英語および選択必修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語から選択）を習得し、
- ②外国文化および異文化に対する理解を深め、
- ③比較文化的視点から日本文化に対する理解を新たにし、
- ④日本文化の創造的発信を行う

意欲と能力を持つ人材を育成しようとするものである。

以上の目的を実現するために、本学科および他の諸学部・学科が提供する授業・各種プログラムに積極的に参加し学ぼうとする意欲と、そのための基礎学力のある者を募る。

また、卒業後、本学で修得したことの基礎に立ち、それをさらに深めつつ、後進の指導及び社会貢献を積極的に行おうとする意欲を持つ者が望ましい。

入試制度の違いはあるが、原則は、本学科で十分に学修ができる程度の学力と適性を有する者を受け入れる。そのために、高校までの学習のあらゆる側面に誠実に取り組むことはもちろんであるが、本学科の特性を考慮し、特に以下の諸科目に積極的に取り組み、一定程度の知識を得ておくことが望ましい。

- ・外国語（「英語」）：『コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』、『英語表現Ⅰ・Ⅱ』など
- ・国語：『国語総合』、『現代文』など
- ・社会および文化に関する領域：『世界史B』、『日本史B』、『地理B』など

【史学科】

高校生活あるいは卒業後の生活の中で、特定分野の学修に興味・関心を持ち、大学での勉学・研究に明確な目的意識と高い意欲を持つ学生を迎え入れ、活気ある創造的な学問の場を創ることを目指す。入学者に求めら

れるのは、まず一般的教養と専門的知識を学修するための基礎学力、更にはコミュニケーション能力、自己表現力、理論的思考力、自主的な学びの姿勢である。史学科で学ぶには、次の4分野の1つまたは複数について強い志望を持つことが必要である。①日本史学、②外国史学、③考古学、④地域文化と景観。入学後の学修・研究においては、史料など歴史的文献を解説することが基本となるため、高校では、古文・漢文、英語、そして日本史・世界史・地理を十分に習得していることが望ましい。

【哲学科】

哲学科は、本学ならびに文学部が定める教育実施方針に基づき、以下のような学生を広く募集し、受け入れる。

- ①建学の精神を理解し、東洋・西洋の哲学思想に対する学修を通して、社会に貢献できる知識と能力を有する学生。
- ②哲学・倫理学および美学・芸術学の学問分野に対する強い志向性を持ち、物事の本質を見極めたいという知的探究心に基づき、論理的思考を通して洞察を深めることができる学生。また、広く文献を渉猟することによって、あるいは他者との対話によって様々な知に触れ、自らの考えを吟味検証することができる学生。
- ③本学科が定める教育課程の学修を十分に理解することのできる基礎的な学力を有する学生。とりわけ入学までの学びにおいては、現代文および英語等の科目を中心とした学習を通して、文献の読解力、論理構築力、思考の表現力等を身に付けることが求められる。

神道文化学部

【神道文化学科】

神道文化学部では、神道を中心として国内外の宗教文化を幅広く学ぶ一貫した教育プログラムのもと、神道と日本文化の継承、その世界に向けての発信に意欲を有する志願者を求めている。

とりわけ公募制自己推薦（AO型）入試を目指す志願者に関しては、高等学校などで習得する科目全般に関する基礎学力はもちろんのこと、日本の伝統宗教や世界のさまざまな宗教文化を、自発的に探究する問題意識、主体的な探究姿勢が要請されよう。単に興味・関心があるというだけでなく、自らが進んで学修できる志向性の高い志願者を求めている点を強調しておきたい。

そのためには、まず何より日本語の読解力・文章表現力が重要である。「国語総合」「現代文」等の学習を通じて、論理的な思考力・表現力をしっかりと身につけてもらいたい。

また、神道文化を学ぶうえでは、日本の歴史や思想、文化などについての総合的な理解も欠かせない。このためには、「日本史A」あるいは「日本史B」の学習が重要である。さらに「倫理」「地理A」「世界史A」等の学習を通じて、宗教文化に根差すさまざまな社会事象・国際問題に対する興味と関心を培うことも大切であろう。外国語については、「英語」ほかの学習によって、基本的な読解力・文法力・会話力を身につけていることが求められる。

法学部

【法律学科（法律専攻・政治専攻）】

法学部は、建学の精神を理解し、本学部の教育課程を通じて法的または政治的思考力を身につけることにより、価値観の多様化する現代社会において、寛容さと謙虚さを維持しつつ、対立する利益を調整し、もしくは問題を的確に解決する力をもって社会に貢献できると思われる学生、また、社会の構成員であることを自覚し、主体的にそこに参画する意欲と能力を持つ学生を育成する。

自己推薦入学制度は、法律学・政治学に強い関心を持って勉学に積極的・自発的に取り組み、学ぶ意欲がある学生を求め、その自己推薦に基づき法学部に迎え入れることを目的とし、大学の勉学に対する「意欲と熱意（モチベーション）」および潜在的能力を評価する。この入学試験制度においては、ALT（アカデミック・リテラシー・テスト）型レポート執筆を通じて1）情報収集・整理・分析力、2）論理的思考力および3）文章構成力・表現力を、また、面接を通じて4）本学部で勉学に励む熱意と十分なコミュニケーション能力を評価する（詳細については、後記の「選考のポイント」(P.24)を参照)。

なお、この入学試験制度は、教科型の入学試験制度ではないものの、入学後の教育内容との関係で、高校で勉強する科目のうち、特に次の科目を学習してきてほしいと考えている。

まず、法律および政治の多くの専門科目に関する基礎的な知識や、日本の法律・政治の歴史や起源についての知識を得るために、「政治・経済」、「日本史」、「世界史」の学習は有用である。また、法制度・政治制度は環境や科学に関する問題と深く関わるため、「基礎的な理科」の学習により自然科学に関する基礎的な知識を予め理解しておくことが望ましい。

次に、「基礎的な数学」の学習は、情報を整理・分析する能力や、法解釈に必要とされる論理的思考力を養うことにつながり、「国語」の学習は、さまざまな文献を読みこなすうえで必要な基礎的な読解力や、レポート・論文等を執筆する際に必要な文章構成力を養うことにつながる。さらに、日本のみならず広く国外へ視野を広げ、法制度・政治制度を客観的な視点で分析するために「英語」の学習は有用である。

経済学部

【経済学科・経済ネットワーク学科・経営学科】

本学部は、日本語・外国語および情報リテラシー教育の充実、基礎から応用までの系統的カリキュラム、少人数演習教育を柱とする教育課程を通じて、企業をはじめとする国内外のあらゆる組織で活躍できる人材の育成を目指しており、教育の「現代化」「現場化」「情報化」の基本方針のもと、学生が入学前からもっていた興味・関心に即した学修ガイドとして8つのコースを設定している（経済学科「経済の歴史と理論」「日本の経済システムと政策」「グローバル経済」、経済ネットワーク学科「地球環境と開発」「地域づくりと福祉」「情報メディア」、経営学科「マネジメント」「会計情報」）。

こうした教育課程の編成内容を理解しつつ、上記8コースの履修を的確に志望するにあたり、経済や経営の現状や歴史に関する、研究・授業・諸活動等の入学前の経験を踏まえた明確な問題意識と、卒業後の将来設計を有し、それを実現するために、在学中の主体的・自発的学修を系統的に計画し、継続的に努力する意欲・能力を有する者を受け入れる。

上記に関して、本学部における基礎的な学修のために「国語」、専門的な学修のために「政治・経済」「日本史」「世界史」「英語」、高度応用的な学修のために「数学」を履修しておくことが望ましい。

人間開発学部

【初等教育学科・健康体育学科・子ども支援学科】

人間開発学部では、自らの資質・能力の向上と人間力育成を求めるとともに、教育者・指導者になることに強い志を持つものを受け入れる。

初等教育学科では、教育の諸領域における各種問題に関する専門的な知識の修得を目指して、「教育の専門家」を志すものに受験してもらいたい。

健康体育学科では、身体諸機能のあり方に関心を持ち、様々なライフステージにおける人間・健康開発に寄与する指導者を志すものに受験してもらいたい。

子ども支援学科では、幼児教育・保育の諸領域における各種問題に関する専門的な知識の修得を目指して、「幼児教育・保育の専門家」を志すものに受験してもらいたい。

公募制自己推薦（AO型）入試では、「人間開発」に強い関心を持ち、本学部・学科への志向性が高い学生を求めている。課外活動やグループ活動においても牽引役となり、学生生活全般に意欲的に取り組む姿勢を期待する。学科の別を問わず、幅広く学ぶ意欲を持ち、基礎学力を持っていることが望まれる。そのためにも、日常生活の中に学習する習慣をつけていることが大切であり、高校での修学以外に、次にあげるような能力検定試験をいくつか受験（合格）していることが望ましい。

漢字検定：準2級以上、日本語検定：3級以上、実用英語技能検定（英検）：準2級以上、歴史能力検定（世界史または日本史）：3級以上、実用数学技能検定：準2級以上、理検STEP：2級以上

さらに、志向性および今後の学生生活・卒業後の進路について展望を持っていることが必須条件となろう。

2. 募集人員・出願資格等

(1) 募集人員

学部	学科	コース・専攻・区分	募集人員
文学部	日本文学科	I 類	20名
		II 類	
	中国文学科		8 名
	外国語文化学科		10名
	史学科		15名
	哲学科		10名
神道文化学部	神道文化学科	フレックス A（夜間主）	5 名
		フレックス B（昼間主）	7 名
法学部	法律学科	法律専攻	24名
		政治専攻	2 名
経済学部	経済学科	K-ENT1	14名※
		K-ENT2	
	経済ネットワーク学科	K-ENT1	16名
		K-ENT2	
	経営学科	K-ENT1	12名
		K-ENT2	
人間開発学部	初等教育学科		12名
	健康体育学科		16名
	子ども支援学科		12名

※経済学科の募集人員はK-ENT3（高大連携授業エントリーコース）を含む。

(2) 出願資格

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む）又は中等教育学校を卒業した者、及び平成29年3月卒業見込みの者。
- ② 高等専門学校の3年次を修了した者、及び平成29年3月修了見込みの者。
- ③ 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、及び平成29年3月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣が指定した者。
- ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の課程を修了した者、及び平成29年3月31日までに修了見込みの者。
- ⑤ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者、及び平成29年3月31日までに修了見込みの者。
- ⑥ 文部科学大臣が指定した者。
- ⑦ 高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定試験に合格した者を含む）、及び平成29年3月31日までに合格見込みの者で平成29年3月31日までに18歳に達する者。
- ⑧ 本学において、個別の入学審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成29年3月31日までに18歳に達する者。

※経済学部（K-ENT2）は、上記のうち③・⑥・⑦・⑧を除く（P.26参照）。

※出願に際し、資格等で不明な点がある場合は、必ず入学課（03-5466-0141）までお問い合わせください。

(3) 併願について

本試験制度内における複数学科・専攻(法学部のみ)への出願は経済学部を除くすべての学部・学科で可能ですが、出願書類は志望学科・専攻それぞれに作成し、提出する必要があります。入学検定料は1学科・専攻につき35,000円で併願に伴う減免はありません。但し、第1次選考（書類選考）の結果、複数学科・専攻に合格した場合は、第2次選考の受験は1学科・専攻のみとなります。なお、試験日の異なる試験制度への併願は可能です。

※文学部日本文学科のⅠ類とⅡ類を併願することはできません。

※経済学部のK-ENT1とK-ENT2の2つのコースを併願することはできません。また、2つのコースともに経済学部の他の学科を併願することもできません。

(4) そ の 他

高等学校等での評定平均値は経済学部K-ENT2を除き出願要件としません。

各学部学科の出願方法によって出願要件は異なります。出願資格と出願要件をよく読んでから出願してください。

(5) 入学検定料

35,000円

※災害救助法適用地域からの入学志願者に対し、入学検定料を免除する制度があります。詳細はP.37を参照してください。

※一度納入された入学検定料については、いかなる理由があっても返還しませんので、ご注意ください。

3. 通学キャンパス・授業時間帯（平成28年度参考）

文学部・神道文化学部・法学部・経済学部のメインキャンパスは「渋谷キャンパス」、人間開発学部のメインキャンパスは「横浜たまプラーザキャンパス」です。なお、文学部・神道文化学部（フレックスB（昼間主）コース）・法学部・経済学部で、クラスが指定される科目の中には、1年次のみ横浜たまプラーザキャンパスでの受講科目があります。神道文化学部（フレックスA（夜間主）コース）のクラス指定科目については全て渋谷キャンパスでの受講となります。

時 限	渋谷キャンパス							時 限	横浜たまプラーザキャンパス						
	曜日 時間	月	火	水	木	金	土		曜日 時間	月	火	水	木	金	土
1	8:50～10:20						共通	1	9:00～10:30						
2	10:30～12:00							2	10:45～12:15						
3	12:50～14:20						・	3	13:05～14:35						
4	14:30～16:00						・	4	14:50～16:20						
5	16:10～17:40						・	5	16:35～18:05						
6	17:50～19:20						・	6	18:15～19:45						
7	19:30～21:00						・								

【フレックス開講制について（神道文化学部）】

フレックス（昼夜）開講制は、コースによりクラス指定される科目を除き、授業時間帯やキャンパスを自由に選ぶことができます。

コースは出願時に選択します。選考時には、両方のコースを選考の対象として「どちらも希望する」ことができます。また、どちらかのコースのみに限定して志願することも可能です。なお、「どちらも希望する」を選択した場合の最終合格は、「フレックスA（夜間主）コース」もしくは「フレックスB（昼間主）コース」のいずれか1コースを大学側が任意に指定します。

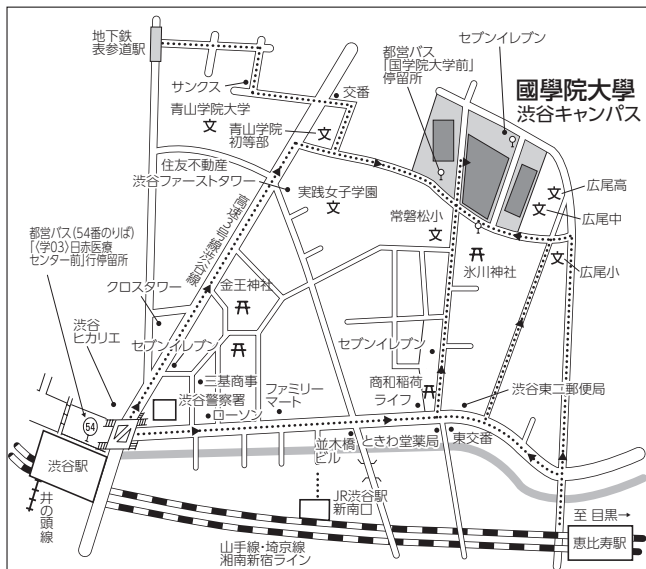
可否の発表は出願時の登録に基づいて行いますので、選択したコースを出願後に変更することは一切認められません。また、入学後のコース変更も認められません。なお、コースが未選択の場合は、「1. どちらも希望する」を選択したものとみなします。

1. 「どちらも希望する」
2. 「フレックスA（夜間主）コース」のみ志願する
3. 「フレックスB（昼間主）コース」のみ志願する

【奨学金制度について】

「フレックスA（夜間主）コース」の入学者が、夜開講時間帯及び共通時間帯だけで受講する場合に対象となる奨学金制度があります。詳細はP.38を参照してください。

渋谷キャンパス試験会場

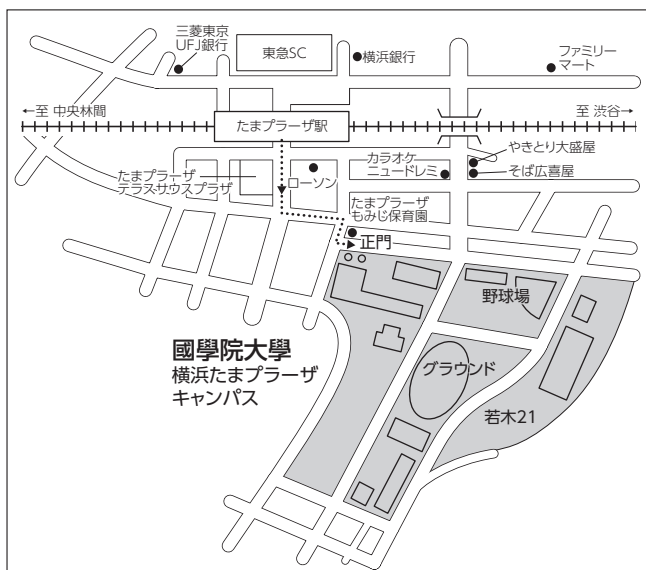


＜所在地＞〒150-8440

東京都渋谷区東四丁目10-28

＜交通機関＞渋谷駅東口方面出口より徒歩約13分、
または、
渋谷駅東口バスターミナル(54番のりば)
より
都営バス〈学03系統〉「日赤医療センター
前」行き（運賃 現金180円・IC175円）
「国学院大学前」下車

横浜たまプラーザキャンパス試験会場

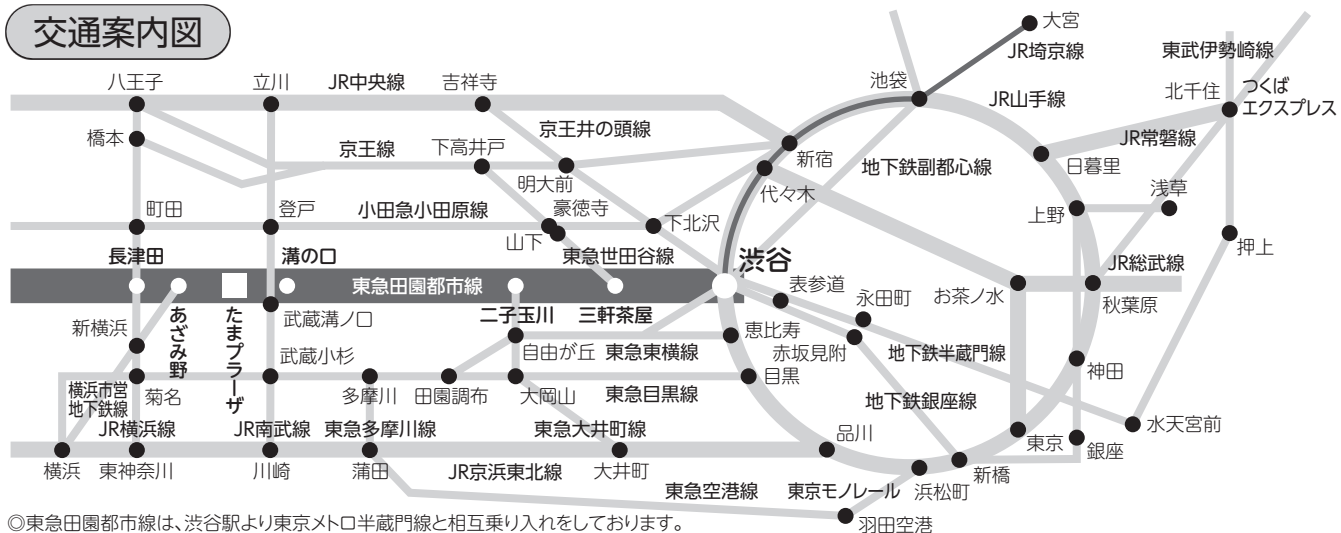


＜所在地＞〒225-0003

神奈川県横浜市青葉区新石川三丁目22-1

＜交通機関＞渋谷駅より東急田園都市線（長津田・中央林間方面行き）にて約25分
（東京メトロ半蔵門線相互乗り入れ）
たまプラーザ駅下車南口より徒歩約5分

交通案内図



4. 実施スケジュール

出 願

【出願期間】

平成28年10月 1 日(土)～ 7 日(金) (消印有効)

第 1 次選考

<経済学部 K-ENT1>

【試 験 日】 平成28年10月16日(日) ※集合時刻については別途通知します。

【選考方法】 自己推薦課題発表と書類選考

<全学部全学科 (経済学部 K-ENT1以外)>

【選考方法】 書類選考

第 1 次選考合格発表【選考結果通知発送】※

平成28年10月21日(金)

第 2 次選考 (第 1 次選考合格者のみ)

【試 験 日】 平成28年11月13日(日)

【集合・開始時刻】

学部	学科	時刻	試験会場 (P.7参照)
文	全学科 (下記を除く)	【集合】 9:30 【開始】 10:00	渋谷
	日本文学科 (I 類)	【集合】 11:00 【開始】 11:30	
	外国語文化学科 (筆記試験免除者)	集合、開始は午後 (※)	
神道文化	全コース	【集合】 9:30 【開始】 10:00	横浜たまプラーザ
法・経済	全学科	集合、開始は午前・午後に分かれる (※)	
人間開発	全学科	【集合】 9:30 【開始】 10:00	

※第1次選考合格者に別途通知します。

最終合格発表【選考結果通知発送】※

平成28年11月24日(木)

入学手続

【入学手続期間】 平成28年11月25日(金)～12月 2 日(金) (消印有効)

※インターネットによる合格発表 (第 1 次選考合格・最終合格共通)

正式な発表は、本人宛に送付する通知としますが、補助的な手段としてインターネットにて合格者の受験番号を公開します。

発表日の 13:00 より、下記のアドレスにアクセスしてください (13:00直後はアクセスが集中し、つながりにくいことがあります)。

合格発表専用ホームページのアドレス

<https://www3.kokugakuin.ac.jp>

(スマートフォン版サイトでは閲覧不可。PC版サイトをご覧ください。)

5. 受験から入学手続まで

(1) 受験に関する諸注意

① 開門時刻	9 : 00 ~ ※ <u>試験教室には試験開始30分前までに入室</u>してください。入場後は、試験が終了するまで場外に出ることはできません。
② 受 験 票	・ 出願された方全員に受験票を発送します。第1次選考発表日（書類選考）の3日前になっても受験票が届かない場合や、記載内容に誤りのある場合、また紛失や破損をしてしまった場合には、入学課（03-5466-0141）までお問い合わせください。 ・ 試験当日は<u>必ず受験票を持参</u>し、案内掲示板にて自分の受験番号を確認のうえ、該当の試験教室に入室してください。 ・ 試験中は受験票を机上に掲示してください。
③ 遅 刻	・ <u>遅刻は一切認めません</u>。事故などによって交通機関に遅延が生じた場合でも、試験は原則として定刻通り実施します。
④ そ の 他	・ 文学部・神道文化学部・人間開発学部の面接試験は午後からとなりますので、<u>昼食を持参</u>してください。 ・ <u>時計は必ず持参</u>してください（通信・計算機能を備えた時計や携帯電話・スマートフォンの時計機能は使用不可）。また、試験時間中は必ず電子機器類の電源を切ってください。 ・ 鉛筆はHB・消しゴムはプラスチック製を使用してください。下敷き・定規・コンパスなどは原則として使用できません。 ・ 和歌、格言等が印字されている筆記具等は使用できません。 ・ 試験教室からの入退室は、試験監督の指示に従ってください。不正行為をした者・監督の注意や指示に従わない者には退室を命じ、以降の受験は一切認めません。 ・ 上履きを持参する必要はありません。 ・ 試験教室の下見はできません。

(2) 合格発表について（P.8 参照）

出願者（受験者）全員に対し、本人宛に選考の結果を送付します（大学窓口での交付はしません）。合格者には必要書類を同封しますので、内容を確認し、所定の手続を行ってください。なお、配達区域により郵便到着に若干の時間差が生じる場合がありますのでご了承ください。

また、電話による可否の問い合わせには一切応じません。

(3) 入学手続について

合格通知書とともに送付する振込用紙にて、大学指定口座に学費等納付金を納入し、その振込受領書と入学手続書類一式を、手続期間内に大学宛に郵送（速達・簡易書留）することによって入学手続が完了します。なお、手続書類配達時の不在および郵便事情による遅配を理由とした入学手続の延期は一切認めません。

6. 入学試験要項

《 文 学 部 》 【1】日本文学科

(1) 募集人員

I 類	20名
II 類	

(2) 出願要件

本学文学部日本文学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて関心を強く持つこと。

志望コード		志 望 項 目
I 類	II 類	
C71	C31	日本古典文学の学問・研究
C72	C32	日本近現代文学の学問・研究
C73	C33	日本語（古代語・現代語・方言など）の学問・研究
C74	C34	伝承文学(民俗学、口承文芸、祭礼・芸能など)の学問・研究
C75	C35	書道に関する学問・研究

※上記のうち関心のある項目1つを入学志願票の所定欄に記入してください。
(入学後の専攻の決定に結びつくものではありません。)

(3) 選考方法

I 類・II 類の2種類で選考方法が異なる（併願は不可）。

※「出願書類について」
(P.32～34)を必ず
熟読してください。

I 類

[第1次選考] 書類選考

レポート（3,000字程度）【様式1】

出願要件で選択した項目に関して、題目をつけたうえで具体的に記述する。

(例)「古事記にみる国生み神話の意義」「九州方言におけるカボチャの分布」「河童と座敷わらしの関連性」など。

[第2次選考]

① 基礎学力試験（30分）

古文に関する問題を解答する形式の試験を行う。

② 面接試験（約20分）

第1次選考のレポート内容についての質疑応答を中心にして面接を行う。

※第2次選考は終日となるため、昼食を持参すること。

II 類

[第1次選考] 書類選考

① 課題レポート（800字程度）【様式1】

「なぜ日本文学科で学びたいのか」

② エントリーシート 【様式5－日本文II類】

[第2次選考]

① 授業の受講とレポート作成（80分）

授業（40分）を受け、授業内容に関するレポート（40分、800字程度）を作成する。

② 基礎学力試験（30分）

古文に関する問題を解答する形式の試験を行う。

③ 面接試験（約20分）

大学での勉学・研究に対する目的意識・修学意欲などについての面接を行う。

※第2次選考は終日となるため、昼食を持参すること。

文学部 日本文学科 「選考のポイント」

I 類

【第1次選考】

レポートは、日本文学科で学ぶ内容に対する関心の強さ、知識・熱意の有無を問うものです。課題設定、調査、考察、そして表現という一連の流れの中で、その内容や結論に独自性はあるか、どれだけ努力をして調べたか、いかに知恵を絞ったか等を判定します。時間をかけて調べ考えて書いたものを評価します。

論題は、例えば「日本神話について」などといったおおまかなものではなく、「天の石屋戸神話における鏡の役割」など、具体的に論点を絞ったものにする必要があります。

【第2次選考】

①基礎学力試験

本学の日本文学科で学ぶにあたって当然備えていなければならない基礎学力があるかどうかを判断するための試験です。

②面接試験

第1次選考で提出したレポートの内容に即して質問します。

II 類

【第1次選考】

課題レポートとエントリーシートで、日本文学科で学ぶことへの意欲・目的意識などを確認します。なぜ國學院大學なのか、なぜ日本文学科なのか、何をどのように学び、そして将来に繋げたいのか、明確な意志を示してください。そして自分が國學院大學の日本文学科で学ぶに相応しい人物であるということを伝えてください。

【第2次選考】

①授業の受講とレポート作成

日本文学科の教員が模擬授業として40分間の授業を行い、その内容を800字程度のレポートとして40分間かけてまとめます。授業内容の中のいくつかの重要ポイントを踏まえているかどうかが採点の基準となります。受講中に要点をメモしておき、重要ポイントをうまく繋げてまとめることが大切です。入学後に大学の授業についていけるかどうかを見極めるための試験です。

②基礎学力試験

本学の日本文学科で学ぶにあたって当然備えていなければならない基礎学力があるかどうかを判断するための試験です。

③面接試験

第1次選考で提出した課題レポートとエントリーシートの内容を中心に質問し、学修意欲、目的意識などについて、口頭であらためて確認します。

【2】中国文学科

(1) 募集人員

8名

(2) 出願要件

本学文学部中国文学科で学びたいという意欲を持ち、中国・中国文学・中国文化などに強い興味・関心を持つこと。

志 望 コード	志 望 項 目
C 61	中国古典の学修・研究
C 62	中国近現代文学の学修・研究
C 63	中国文化の学修・研究
C 64	教職を目指しての専門分野の学修・研究

※上記のうち関心のある項目1つを入学志願票の所定欄に記入してください。
(入学後のプログラムの決定に結びつくものではありません。)

(3) 第1次選考の 免除

次の条件に該当する者は、本人の申請に基づいて、第1次選考を免除する。
社会人：平成29年4月1日現在において、満22歳以上である者。

就業経験は問わない。

※免除申請者は、履歴書【様式7】を必ず提出してください。

(4) 選考方法

※「出願書類について」
(P. 32～34) を必ず
熟読してください。

【第1次選考】書類選考

① 自己推薦書 (900～1,000字) 【様式2】

出願要件のC61～C64の4つの項目のうち、入学後の4年間で実現したいと思う志望(複数可)について、具体的に、詳しく記述する。

② 添付資料目録・活動報告書および添付資料【様式3・4】

③ 履歴書(社会人に対する第1次選考免除申請者のみ)【様式7】

【第2次選考】

① 授業の受講とレポート作成(120分)

授業(50分)を受け、授業内容に関するレポート(70分、1,000字程度)を作成する。

② 面接試験(約20分)

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

※第2次選考は終日となるため、昼食を持参すること。

文学部 中国文学科 「選考のポイント」

中国文学科では、中国文学を中心に、幅広く中国への関心と探究心を持ったみなさんの学修に即応する教育システムを導入しています。公募制自己推薦（AO型）入試は、みなさんの意志と意欲を中心に選考しますので、中国への関心・中国文学科への理解がその前提となります。選考の視点は次のとおりです。

- 1) 将来の自分のために、中国文学科で何を学びたいと考えていますか。

学ぶことは、自己実現のための第一歩ですが、大学4年間でどのように活用しようと考えているか、その希望が明確であることを期待しています。

- 2) 中国文学科の教育内容の特色をどのように理解していますか。

中国文学科は、2年次以降、文学研究・中国語教養・中国民俗文化・人文総合の4プログラムを選択して学びます。そのどの部分に期待しているかは、私たちの最も関心のあるところです。「期待と違った」という入学後のミスマッチを無くすためにも、事前にホームページや入学案内・入学試験要項で確認し、わからないところは、オープンキャンパスなどで問い合わせ選考に臨んでください。

- 3) セメスター留学*に興味はありますか。

この希望は入学選考の合格条件ではありませんが、中国文学科では、セメスター留学への参加を推奨していますので、入学前からよく理解しておいてほしいと考えています。1年次の後期には参加の意思確認がありますので、入学前から留学に興味のある方は、積極的にアピールしてください。

※2年次の3～4ヶ月を、中国語圏の大学で学びます。4プログラムいずれを選択しても参加できます（中国語教養プログラムは必修）。

【3】外国語文化学科

(1) 募集人員

10名

(2) 出願要件

本学文学部外国語文化学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望（複数可）を強く持つこと。

志望コード	志望項目
C 36	2外国語（英語および独・仏・中3カ国語のいずれか）についての学修・研究
C 37	外国語によるコミュニケーションや言語文化についての学修・研究
C 38	英語・独語・仏語・中国語圏の文化についての学修・研究
C 39	外国語による日本文化の発信活動

※上記のうち主として志望するもの1つを入学志願票の所定欄に記入してください。（入学後のコース決定に結びつくものではありません。）

【第2次選考筆記試験の免除】

次のいずれかを取得した者は、本人の申請に基づいて、第2次選考の筆記試験を免除する。（平成26年4月1日以降に取得したものに限る。）

- ① 実用英語技能検定（英検）準1級以上
- ② TOEFL® iBT61点（PBT500点）以上 ※ITPは不可
- ③ TOEIC® 600点以上 ※IPは不可

上記資格の証明書の原本（いずれもコピー並びにWebから印刷したものは不可）を、添付資料目録（提出書類【様式3】）に添付してください。

- ①は主催団体が発行する合格証明書（和文・英文のいずれか1通）
- ②は“Examinee Score Report”
- ③は“Official Score Certificate”

(3) 選考方法

【第1次選考】書類選考

- ① 自己推薦書（900～1,000字）【様式2】
- ② 添付資料目録・活動報告書および添付資料【様式3・4】

※「出願書類について」
（P. 32～34）を必ず
熟読してください。

【第2次選考】

- ① 筆記試験〈英語と400字程度の日本語小論文〉（90分）
基礎的な英語力および日本語の文章表現力について試験を行う。
- ② 面接試験（約20分）
大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う
（英語による質疑応答を含む）。

※第2次選考は終日となるため、昼食を持参すること（筆記試験の免除者は除く）。

(4) その他

実用英語技能検定（英検）2級以上、またはTOEIC®のスコア450点以上を獲得できる能力を持つことが望ましい。

文学部 外国語文化学科 「選考のポイント」

【第1次選考】

自己推薦書の審査で問われるのは、外国語文化学科で学ぶ強い意志があるかどうかということです。単に学ぶ意志があるというだけではなく、その意志を持つに至った経緯や、入学後に何を学びたいのかを、わかりやすく説明してください（資料があれば、必ず添付してください）。また、卒業後の進路について述べる場合も、目標を達成するための方法や手順について具体的に述べてください。

【第2次選考】

筆記試験では、基礎的な英語力と日本語の文章表現力が問われます。英語の試験には英文和訳や和文英訳も含まれます。日頃からよく勉強しておいてください。日本語小論文では、あるテーマ（学校の制服を廃止すべきか、英語を公用語にすべきか、等）とその背景説明をした短い文章が課されます。みなさんには、その文章の内容をふまえたうえで、自分の考えを述べてもらいます。問題の所在を的確につかみ、それに対して自分の考えを論理的にわかりやすく表現できているかどうか採点のポイントになります。また、正しい日本語で記述できているかどうかにも重視します。

面接試験には英語による質疑応答が含まれています。自己紹介や入学後の計画、さらにもっともアピールしたいポイントなどを整理し、それらを英語でもはっきり言えるよう、よく練習しておきましょう。ただし、あまりにも準備してきた内容にばかり気をとられて質問をとり違えたりしないよう、落ち着いて臨むことも重要です。

【4】史 学 科

(1) 募 集 人 員

15名

(2) 出 願 要 件

本学文学部史学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望（複数可）を強く持つこと。

志 望 コード	志 望 項 目
C 51	日本史学に関する学修・研究
C 52	外国史学（東洋史学）に関する学修・研究
C 53	外国史学（西洋史学）に関する学修・研究
C 54	考古学に関する学修・研究
C 55	地域文化と景観に関する学修・研究

※上記のうち主として志望するもの1つを入学志願票の所定欄に記入してください。（入学後のコース決定に結びつくものではありません。）

(3) 選 考 方 法

※「出願書類について」
(P. 32～34) を必ず
熟読してください。

【第1次選考】 書類選考

① レポート（2,000字程度）【様式1】

出願要件の志望項目に関する具体的な内容について、題目をつけたうえで記述する。なお、必ず参考文献を所定欄に記入すること。

【例】 遺跡の発掘や民俗調査、地域調査などに参加した経験に基づくもの、あるいは「日本古代の女帝」・「明代の倭寇と海上交通」・「後醍醐天皇と足利尊氏」・「利根川東遷と新田開発」・「バルカン半島の民族主義」・「近代都市の形成と都市計画」・「近代の戦争と女性」など、広い意味で歴史に関して自分が強い関心を持って調べてみたいテーマに関するもの。

② 自己推薦書（900～1,000字）【様式2】

③ 添付資料目録・活動報告書および添付資料【様式3・4】

【第2次選考】

① 小論文試験（800字程度）と基礎学力試験（90分）

小論文試験は英文・漢文・古文の文章の中から1つを選んで読み、与えられた課題について述べる。英文・漢文・古文の文章は、いずれも高校生が平易に読めるものを出题する。基礎学力試験は英語・国語・地理歴史の基礎的な知識を問う。

② 面接試験（約20分）

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

※第2次選考は終日となるため、昼食を持参すること。

文学部 史学科 「選考のポイント」

【第1次選考】

レポートにはさまざまな書き方がありますが、特に書き方の指定はありません。ここでは、レポートの書き方の一例をあげておきます。レポートは「序論」「本論」「結論」の3つの部分から構成するのがよいでしょう。序論では、自分がそのテーマを選んだ理由や調べる前の自分の問題意識・立場などを書き、本論では、自分が具体的に書物などを読んで調べた内容、実地調査などに参加して知り得たことを書きます。必要に応じて段落分けをしてもよいでしょう。そして結論では、研究を通じて自分自身が考えたことや感じたことを十分に検討したうえで書いてください。「本論」の部分は、書物からの引用・要約などが中心となりますが、引用した部分と自分の意見とをきちんと区別して書いてください。

また、誤字や脱字がないか、論述に矛盾がなく首尾一貫しているか、起承転結が明確であるか、わかりやすい文体で書いているかなどについて、何度も推敲を重ねて提出してください。

自己推薦書では、どんな動機から大学に入学して歴史学の勉強をしたいのか、入学後にはどのような勉強や研究をしたいのか、自分のどのようなところを長所として評価してもらいたいのかを要領よく、また、熱意が伝わるようにじっくり考えて記述してください。

【第2次選考】

小論文試験では、出題された英文・漢文・古文の文章をしっかりと読みこなしたうえで250字程度で内容を要約し、それに対する自分の考えなどを550字程度でまとめます。課題文を的確に読み取れているか、また、課題文に対する自分の考えを論理的かつ明快に表現できているかどうかが採点の基準になります。日頃から長文の読解力を養うように努力してください。

基礎学力試験では、英語・国語・地理歴史の基礎的な問題が出題されますので、日頃からよく勉強しておいてください。

面接試験では、史学科への志望理由や入学後の学生生活への抱負などを、明確かつ簡潔に説明できることが求められます。また第1次選考で合格したレポートについて、その動機や作成過程について説明ができるように準備しておいてください。

【5】哲 学 科

(1) 募 集 人 員

10名

(2) 出 願 要 件

本学文学部哲学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望（複数可）を強く持つ者。

- ①西洋古代・近代・現代の哲学、倫理学の学修・研究
- ②東洋哲学（日本哲学、インド哲学、中国哲学など）の学修・研究
- ③応用倫理学（生命倫理、環境倫理など）の学修・研究
- ④宗教思想の学修・研究
- ⑤西洋古代・近代・現代の美学、芸術哲学の学修・研究
- ⑥西洋・東洋・日本美術史、美術思想の学修・研究
- ⑦芸術学（映像論、音楽論、舞踏論、建築論など）の学修・研究

(3) 選 考 方 法

※「出願書類について」
(P. 32～34) を必ず
熟読してください。

【第1次選考】書類選考

① レポート（800字程度）【様式1】

【論 題】

書籍一冊、ないし美術作品、映画等一点を取り上げ、それについて紹介しつつ、どのような点に深く関心を持ったのか、またその理由を示すこと。なお、書籍の場合は第2次選考の課題図書とは異なるものを選び、書籍名・取り上げた作品名等は表題の欄に記入すること。

② 自己推薦書（900～1,000字）【様式2】

これまでの学習意欲と関連づけて、本学科入学後に学びたいことについて示すこと。

【第2次選考】

① 小論文試験（90分、1,000字程度）

あらかじめ次の課題図書のうち1冊を読んでいることを前提とした試験。課題図書は、試験当日持参すること。

【課題図書】

- ①トゥーセントハットほか著、鈴木崇夫訳
『ぼくたちの倫理学教室』（平凡社新書）
- ②鷺田清一著
『モードの迷宮』（ちくま学芸文庫）

② 面接試験（約20分）

大学での学問・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

※第2次選考は終日となるため、昼食を持参すること。

文学部 哲学科 「選考のポイント」

【第1次選考】

「レポート」：書籍一冊、ないし美術作品、映画等一点を取り上げ、自分がとりわけ関心を持った箇所をまとめたうえで、どのような点に深く関心を持ったのか、またその理由を800字程度で述べるものです。特に次の三点を重視して選考が行われます。

(1) 書籍や作品について、論点を絞ってしっかりとまとめられているか

取り上げる書籍や作品の内容すべてを網羅する必要はありません。自分がとりわけ関心を持った箇所がどこかを明確に示し、正確にまとめられているかを見ます。

(2) 自分なりの意見の形成ができているか

参考書等からとってきたような考えではなく、あなたが何を理解し、あなたがどのように考えたのかを書けているかを見ます。ポイントとなるのは結論に至る思考過程であって、導き出された意見が正しいかどうかではありません。

(3) 正しい日本語で、論理的に書けているか

論述は、興味や関心の異なる他人に自分の考えを理解してもらうためにあるのであって、書いた本人しかわからないような文章では意味をなしません。正しい日本語で、論理的に、わかりやすく思考過程を説明しなければなりません。「論理的に」というのは、「自分の考えの理由・根拠を示している」ということです。

「自己推薦書」：なぜあなたが哲学科で学ぶ必要があるかをこれまでの学習意欲と関連づけて述べるものです。自分の高校での活動記録に終始する自己推薦書は多いのですが、そのことは哲学を学ぶために絶対に不可欠なものではありません。むしろ、そうした活動や日々の思索を通じて、自分がなぜ哲学あるいは美学をより学ぼうと考えるに至ったか、具体的に何をどのように学びどのような方向性で自分の考えを深めていきたいかに選考側は関心があります。

【第2次選考】

「小論文試験」：あらかじめ読むよう示された課題図書の中から扱われている問題について、1つ論述問題が課され、指定された論題について、1,000字程度で述べるものです。当然ながら、問いは課題図書の内容をふまえたものとなりますが、小論文は問いの正解のようなものを課題図書の中から探す作業ではありません。

選考のポイントは第1次選考の「レポート」でのポイントに等しいのですが、それに加えて、提示されている課題が「いかなる問い」を扱ったものであるかを正確に把握しているかどうかを見ます。

たとえば、過去に以下のような課題が出ています。

過去の例 プラトン著・藤沢令夫訳『メノン』(岩波文庫)

問 『メノン』の冒頭において、メノンはソクラテスに対して、徳は人に教えられて学ぶことのできるものであるか、それとも教えられて学ぶことはできずに訓練によって身につけられるものであるか、それともまた、学んでも訓練しても得られるものではなく生まれつきの素質によるものか、さらにまた、そのいずれでもない仕方によるものなのか、と問うている。あなたは『メノン』を読んで、「学び」の本質についてどのように考えたかを延べよ。(1,000字程度)

上記の例であれば、「徳は人に教えられて学ぶことのできるものであるか」や、「学ぶこととはどのようなことか」といった根本問題を、まずは理解していることが必要です。そうした前提をふまえずに、たとえばプラトンの思想などについて詳細に説明できても意味はありません。課題で言及されている人物や事柄について知っていることは有益ですが、たとえ何も知らなくとも、問われている課題について深い思考ができなければなりません。そのためには、課題図書をただ読むだけでなく、そこに出てくる用語などを調べ、理解を深めておくことが必要です。

「面接試験」：哲学科への志望理由や、入学後の学生生活への抱負などを、明確に説明することが求められます。また、哲学・美学におけるトピックに関する問題についてどう思うか、いくつか問われる時があります。その場合も、とくに固有名詞などに詳しくある必要はなく、問題の所在を把握しているかどうかと、そこから論理的に自分なりの意見形成ができているかが問われます。朗らかかどうかといった、一般的な面接試験で求められる外交的な要素はあまり重視しません。

《 神道文化学部 》 【1】 神道文化学科

(1) 募集人員

コース	募集人員
フレックスA(夜間主)	5名
フレックスB(昼間主)	7名

※コースの選択については、P. 6を熟読してください。

(2) 出願要件

本学神道文化学部神道文化学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望（複数可）を強く持つこと。

志望コード	志望項目
C41	古代の神道史・神社の学修・研究
C42	近世・近代の神道思想や制度の学修・研究
C43	祭式・神社実務の学修・研究
C44	宗教・宗教文化の学修・研究
C45	比較宗教文化・国際化の学修・研究
C46	現代社会と宗教、宗教理論の学修・研究

※上記のうち主として志望するもの1つを入学志願票の所定欄に記入してください。（入学後のコース決定に結びつくものではありません。）

(3) 選考方法

※「出願書類について」
(P. 32～34) を必ず
熟読してください。

【第1次選考】 書類選考

① レポート（課題図書を読んだ感想文 2,000字程度）【様式1】

課題図書で、「Ⅰ. 神道とは何か」、「Ⅲ. 神社の分布と神道の現在」のいずれか1つ、または「Ⅱ. 神道の歴史」のうち「一. 祭祀の誕生」から「五. 新たな神道体制の確立」までの五節の中で1つを選び読み、内容の要約（400字程度）と自らが興味・関心を持った点について合わせて2,000字程度で論述する。

【課題図書】

岡田荘司 編 『日本神道史』（吉川弘文館）

② 自己推薦書（800～1,000字）【様式2】

「出願要件」にある志望項目を選択し、その事項を表題に記入すること。

③ 添付資料目録・活動報告書および添付資料【様式3・4】

【第2次選考】

① 授業の受講とレポート作成（120分）

授業（60分）を受け、授業内容に関するレポート（60分、800字程度）を作成する。

② 面接試験（約20分）

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

※第2次選考は終日となるため、昼食を持参すること。

神道文化学部 「選考のポイント」

公募制自己推薦（AO型）入試では、出願要件6項目のいずれかについて強い関心を持ち、それへの学修・研究意欲に富み、かつ神道文化学部を選ぶ明確な理由のある人物を募集します。特に志向性と国語力を重視します。

【第1次選考】

レポート作成では、課題図書の内容を理解できるまで何度もよく読み、どのような内容の論文なのか、何に注目し、それについてどのような興味や感想を持ったのかを明記するものです。誤字や脱字がないか、不正確な文章になっていないかを、よく見直してから提出するようにしてください。面接ではレポートに関する質問をしますので、レポートを複写して手元にとっておき、はっきりとした口調で明確に答えられるよう練習しておきましょう。また、課題図書以外に関心のある図書があれば何冊でも積極的に読んでおきましょう。

なお、毎年、コミック本・SF小説などから興味をもって受験してくる方や、神主さんや巫女さんが面白そうだからといって受験してくる方がいますが、課題図書以外に専門的な図書を1冊も読まず、漠然としたイメージを持っただけでは適格者とは認められませんので、あらかじめ注意してください。

【第2次選考】

授業の受講とレポート作成は、みなさんが大学での講義についていけるかを判断するものです。授業のポイントをよくおさえた、誤字や脱字のない正確な文章（800字程度）を作成できるよう、日頃から準備しておきましょう。

面接試験では、自分の志望動機・入学後の目標・卒業後の展望等について、筋道を立てて伝えることが重要です。また神道の基礎知識を問う場合もあるので、神道に関わる書籍を前もって自主的に読み込んでおくことも大切です。

《 法 学 部 》 【1】 法律学科

(1) 募 集 人 員

専 攻	募集人員
法律専攻	24名
政治専攻	2 名

(2) 出 願 要 件

法律学・政治学に強い関心を持ち、その勉学に積極的・自発的に取り組み、学ぶ意欲があること。なお、高等学校での評定平均値などの学業成績は、条件としない。

(3) 社会人に対する
第1次選考の免除

次の条件を満たす者は、本人の申請に基づいて、第1次選考を免除する。
平成29年4月1日現在において、満22歳以上で、かつ職についていること（パートおよびアルバイトならびに平成29年4月1日からの就職内定を含む）、または主婦もしくは主夫であること。ただし、平成29年4月1日現在において満24歳未満の者については、平成28年4月1日以前から職についていること（パートおよびアルバイトを含む）、または主婦もしくは主夫であること。
※免除申請者は、履歴書および在職証明・推薦書【様式7】を提出する必要があります。また、エントリーシート【様式5－法】およびレポート【様式1】は、第2次選考のために必要ですので、必ず提出してください。
(出願書類の詳細については、P. 32～34をご参照ください)

(4) 選 考 方 法

※「出願書類について」
(P. 32～34) を必ず
熟読してください。

【第1次選考】 書類選考

① エントリーシート【様式5－法】

「志願理由について」、「あなた自身のこと」、「社会への関心」という3つの項目につき、所定の様式に従って記入してください。

② レポート〔ALT（アカデミック・リテラシー・テスト）型レポート〕

【様式1】(1, 200～2, 000字)

《レポート作成の注意事項》

★ 【様式1】に手書きで記入してください。パソコン等を利用して作成する場合には、A4サイズ of 用紙に40文字×40行でプリントアウトし、【様式1】を表紙として本文以外の箇所を記入し、1枚目に付けて提出してください。

★ レポートを作成するにあたり参照した文献名やウェブページのURL等は、【様式1】の「注（参考文献）」にリストアップしてください。

★ レポート等は、第2次選考の面接の際に必要となりますので、必ずコピーなどを手元に残し、試験当日に持参するようにしてください。

【レポート課題】

日本社会の少子高齢化や人口減少という問題とも関連して、移民受け入れをめぐる議論が活発化しています。そこで、日本社会と移民というテーマについて、以下の内容を含む1,200字～2,000字のレポートを作成してください。

- (1) そもそも、移民とはどのような人々でしょうか。難民との異同に配慮して説明してください（字数の目安：120字～220字）。
- (2) 日本における移民に関するこれまでの状況について、説明してください（字数の目安：200字～300字）。
- (3) ドイツやフランスなどでは、どのような移民政策がとられ、どのような問題が生じているか、説明してください（字数の目安240～320字）。
- (4) 今後の移民受け入れについて、これを認めるべきとする見解と認めるべきではないとする見解が対立しています。両者を具体的に紹介してください（字数の目安：330～580字）。
- (5) 以上を踏まえて、移民受け入れを認めるべきとする見解と認めるべきではないとする見解のうち、あなたはどちらを支持しますか。理由を付して論じてください。なお、あなたがどちらの見解を支持するかは、可否と直接関係しません（字数の目安：310字～580字）。

③ 履歴書および在職証明・推薦書(社会人に対する第1次選考免除申請者のみ) 【様式7】

[第2次選考]

① 自己アピール (5～10分)

いかに自分が國學院大學法学部で学ぶ意欲を有しているか、そして入学に値する人物であるかを口頭でアピールするものです。

② 面接試験 (20分程度)

第1次選考の際に提出したレポートの内容等に関する質問に回答してもらいます。

※レポートを作成する際に利用したパソコンや文献等はすべて会場に持ち込むことができます。自己アピールや面接試験でパソコンやAV機器等の利用を希望する方は、事前に入学課（03-5466-0141）までご連絡ください。なお、電源や投影用のプロジェクター・スクリーン等の提供はできませんのでご注意ください。

事前連絡期限：10月28日(金) 17:00まで。

法学部 「選考のポイント」

【第1次選考】

(1) エントリーシート

志願理由や自己推薦理由といった、本来であればたくさん書きたいことを、限られたスペースに要領よくまとめて書かなければなりません。そのためには、自分は何のために大学に入って法律や政治を勉強したいのかや、自分のどんなところを評価してもらいたいのかなどを、じっくりと考えて、明確にしておく必要があります。そして、どのように記述したら、読み手に的確に伝えることのできる文章になるかについてもよく考えて記述しましょう。

(2) レポート【ALT（アカデミック・リテラシー・テスト）型レポート】

ALT型レポートでは、①文献等を正確に読めるか、②収集した情報を一定の基準に従って整理・分類できるか、③整理・分類した情報をテーマに則して的確に分析できるか、そして④分析結果に基づいて論理的に結論を導き出し、明確に表現できるかどうか、という4点が重要になってきます。とはいえ、最初から構えて完璧主義を貫こうとすると挫折しやすいので、ある程度文献を収集した段階で、何はともあれ書いてみることをお勧めします。その後、第三者の視点で欠陥を発見し、文献をもう一度読み直したり、書いた文章を修正したりする——このようなプロセスを何度か繰り返し、完成度を高めていくとよいと思います。

どのような文献から手を付けたらよいかわからないという人のために、参考となる文献やウェブページの例を下表に掲げておきます。これらの文献等を読めばレポートを書くのに困らないはずです。

なお、これらは例であって、必ず参照せよと言っているわけではありませんのでご注意ください。

また、P.22で説明しましたが、【様式1】の「注（参考文献）」欄に文献名やURLをリストアップする必要があります。その書き方について厳密な要求はしませんが、下表最左列の書き方を真似てみれば問題なく書けるでしょう。

参考となる文献またはウェブページ（例）	データ	備考
『なぜ今、移民問題か「別冊『環』20』』（藤原書店、2014年）	[ISBN]9784894349780	移民問題をめぐる様々な論点について、主として受け入れ賛成の立場から検討。豊富な資料・データを含む。
毛受敏浩『人口激減－移民は日本に必要である－』【新潮新書】（新潮社、2011年）	[ISBN]9784106104350	国際交流に携わってきた筆者による移民受け入れの提案。
宮島喬・鈴木江理子『外国人労働者受け入れを問う』【岩波ブックレットNo.916】（岩波書店、2014年）	[ISBN]9784002709161	日本における外国人労働者受け入れの現状について具体的に解説・検討。
岡伸一「外国人労働者受け入れ拡大の政策論点と課題－国際貢献・条件整備・範囲拡大」【『SYNODOS』、2014/10/01】 http://synodos.jp/welfare/9705 （最終アクセス 2016年5月30日）		外国人労働者受け入れにともなうコストについて多面的に解説。
児玉卓「移民レポート1 日本の移民問題を考える」【『大和総研リサーチレポート』、2014/11/17】 http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/world/20141117_009135.pdf （最終アクセス 2016年5月30日） 山崎加津子「移民レポート3 ドイツ：移民政策転換から15年」【『大和総研リサーチレポート』、2014/11/18】 http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/world/20141118_009142.pdf （最終アクセス 2016年5月30日）		前者は日本、後者はドイツにおける外国人労働者・移民問題の経緯や現状について解説。

【第2次選考】

(1) 自己アピール

記述中心の第1次選考と違って、第2次選考では口頭で説明する力が試されます。まずは、エントリーシートで記述した自己推薦理由などを口頭で説明する自己アピール（プレゼンテーションとも言います）です。5分以上10分以内と時間が限られていますので、要領よく、しかし説得力のあるアピールをすることが肝要です。もっともアピールすべきことは、「あなた自身がいかに関学院大学法学部で学ぶ意欲を有しているか、そして入学に値する人物であるか」ですから、関学院大学の校風などを延々と述べてもあまり評価は高くない点に注意してください。それから、プレゼンテーションの方法を工夫することも大事です。コンピュータ、AV機器、フリップなどを使ったプレゼンテーションは、うまくいけば、より効果的なアピールになるでしょうが、必ずそうしなければならないわけではありません。まずは自分のアピールしたい内容をしっかりと決め、それとのバランスを考えて方法を選択した方がよいといえるでしょう。

(2) 面接試験

面接では、第1次選考のために書いたレポート（ALT型レポート）等についての質問を受けることになります。具体的には、あなたのレポートの内容について疑問と思われる点、レポートに書かれていないけれど重要な点、関連する事項についての補足的な説明を求められることになるでしょう。それらに適切に答えるためには、提出した後も、テーマについて継続的に情報を収集し、自分のレポートを見直しておくことが大切です。そして、書いていたときには気づかなかった問題点を発見したり、提出後に新たな事態が生じて事情が違ってきている場合などには、速やかにその点を補足、訂正しておくことが重要です。

《 経 済 学 部 》 【1】 経済学科 【2】 経済ネットワーク学科 【3】 経営学科

(1) 募集人員

学 科	募集人員	
経済学科	K-ENT1	14名※
	K-ENT2	
経済ネットワーク学科	K-ENT1	16名
	K-ENT2	
経営学科	K-ENT1	12名
	K-ENT2	

※経済学科の募集人員はK-ENT3（高大連携授業エントリコース）を含む。

(2) 出 願 要 件

以下の2つのコースともに、公募制自己推薦（AO型）のアドミッション・ポリシーの内容を十分に理解したうえで、以下の [1][2] の要件を必ず満たすこと。

- [1] 高校での学習や生活の中で、経済や経営の現状や歴史に関する研究・授業・諸活動の経験を踏まえた明確な問題意識を持っている者。
- [2] 自らの卒業後の具体的な将来像を持ち、その将来を実現するために、なぜ経済学科・経済ネットワーク学科、経営学科を選択し、そこで何を学ぼうとするのか明確である者。

志望コード	志望コース
K01	K-ENT1 [自己推薦課題発表コース]
K02	K-ENT2 [得意分野・得意教科コース]

入学志願票の志望・活動コード欄に出願する志望コードを記入してください。

(3) 併願について

K-ENT1とK-ENT2を併願することはできません。また、いずれのコースも経済学部他学科を併願することもできません。

※「出願書類について」
(P.32～34) を必ず
熟読してください。

(4) 選 考 方 法

K-ENT1（自己推薦課題発表コース）

■応募要件

このコースは、前述の [1][2] の要件に即して、自らを推薦しうる経済・経営分野の課題を設定し、その課題に関する学習内容を発表できる出願者を選考する。

■第1次選考 発表と書類選考

①自己推薦課題シート【様式6】

自己推薦発表に臨むにあたり、発表内容に関するシートを作成し、事前に提出する。発表用の資料についてはP.26を参照すること。

②自己推薦課題の発表（約30分）

自己推薦課題についての研究発表を行う。発表は少人数の面接者の前で行う。発表会形式ではなく面接形式の発表になる。時間配分は、受験者の発表が約20分間、教員からの講評・助言が約10分間。

— <自己推薦課題発表時の注意事項> —

★当日持参資料について

発表用の資料は3部用意すること。A4サイズで片面10枚（または両面5枚）以内。出典資料名を必ず明記してください。

★機材等の使用について

課題発表シートを作成する際に利用した、コンピュータや文献はすべて会場に持ち込むことができます。自己推薦課題を発表する際にコンピュータやAV機器等の利用をする方は、事前に入學課（03-5466-0141）までご連絡ください。なお、電源や投影用のプロジェクター・スクリーン等の提供はできませんので、ご注意ください。

事前連絡期限：10月7日（金） 17:00まで。

③志望理由書（1,500字以内）【様式1】

特に自分が強い問題意識や関心を持つ分野について、表題をつけたうえで説明し、その分野について本学での4年間にどのような学修を進めていきたいか、できるだけ具体的に記述すること。また卒業後に大学で学んだことを活かしてどのような職業生活を送りたいと考えているかについても明記すること。

④自己推薦書（1,500字以内）【様式2】

自分を推薦する内容と理由について具体的に記述すること。その際に、志望理由書に記述した問題・関心分野について、これまでどのような学習や経験を積んできたかを明記すること。それらの自己推薦書の内容を簡潔に示す表題をつけること。

⑤添付資料目録・活動報告書および添付資料【様式3・4】

強い問題意識や関心を持つ分野に関する具体的な証書・証明書、マスコミ記事、論文・研究レポート（共同制作の場合は自分の貢献範囲を明記すること）などがある場合は添付すること。

⑥調査書（成績は選考要件ではなく、履修教科を参照する。）

■第2次選考 面接試験（約20分）

面接試験の最初に志望理由や学修計画、卒業後の進路などについて5分間程度、次に、自己推薦課題発表に対する助言点への回答・修正点などについて5分間程度説明してもらう。

K-ENT2（得意分野・得意教科コース）

■応募要件

このコースは、前述の[1][2]の要件を満たしたうえで、得意分野もしくは得意教科を持っている出願者を選考する。具体的には、以下の2つのいずれかを有する者。

※この入試制度は評定平均値の基準があるため、高等学校生徒指導要録による5段階評価を行っている教育機関の生徒のみ出願が可能。

- 1) 評定平均値4.0以上、かつ経済学部公募制自己推薦（AO型）のアドミッション・ポリシーに明記されている教科・科目（国語、政治・経済、日本史、世界史、英語、数学）のうち1科目以上の評定（1、2年ま

たは3年前期のいずれか)が5の者

- 2) 評定平均値4.0以上、かつ経済学部公募制自己推薦(AO型)のアドミッション・ポリシーに係る資格の保有者*

*アドミッション・ポリシーに関する保有資格とは、外国語、漢字、情報、簿記、地理、歴史、数学、経済に関連すると判断される資格である。

例えば、以下の試験が挙げられるが、以下に限るものではない。

- ①実用英語技能検定試験(日本英語検定協会)
- ②TOEFL®
- ③TOEIC®(公開テスト、IPテストのいずれも可)
- ④英語検定試験(全国商業高等学校協会、以下全商と表記)
- ⑤実用数学技能検定試験(日本数学検定協会)
- ⑥日商簿記検定試験
- ⑦簿記実務検定試験(全商)
- ⑧基本情報技術者試験(独立行政法人情報処理推進機構、以下IPAと表記)
- ⑨応用情報技術者試験(IPA)
- ⑩ITパスポート試験(IPA)
- ⑪日本漢字能力検定試験(日本漢字能力検定協会)
- ⑫漢語水平考試(HSK)

■第1次選考 書類選考

①調査書

②資格証明書

応募要件2)の出願者は必須(コピー可)。

③志望理由書(1,500字以内)【様式1】

特に自分が強い問題意識や関心を持つ分野について、表題をつけたうえで説明し、その分野について本学での4年間にどのような学修を進めていきたいか、できるだけ具体的に記述すること。また卒業後に大学で学んだことを活かしてどのような職業生活を送りたいと考えているかについても明記すること。

④自己推薦書(1,500字以内)【様式2】

自分を推薦する内容と理由について具体的に記述すること。その際に、志望理由書に記述した問題・関心分野について、これまでどのような学習や経験を積んできたかを明記すること。それらの自己推薦書の内容を簡潔に示す表題をつけること。

応募要件2)の出願者は、資格取得とアドミッション・ポリシーとの関連についても必ず記述すること。

⑤添付資料目録・活動報告書および添付資料【様式3・4】

強い問題意識や関心を持つ分野に関する具体的な証書・証明書、マスコミ記事、論文・研究レポート(共同制作の場合は自分の貢献範囲を明記すること)などがある場合は添付すること。「資格証明書」の証書・証明書自体は重複するので不要だが、それに関する別の資料や活動がある場合には、この「添付資料目録・活動報告書」に記載すること。

■第2次選考 面接試験（約20分）

面接試験の最初に志望理由や学修計画、卒業後の進路などについて5分間程度説明してもらう。

社会人対象の選考（K-ENT2準用）

平成29年4月1日時点で、満22歳以上であること。就業経験は問わない。

■第1次選考 書類選考

①志望理由書（1,500字以内）【様式1】

特に自分が強い問題意識や関心を持つ分野について、表題をつけたうえで説明し、その分野について本学での4年間にどのような学修を進めていきたいか、できるだけ具体的に記述すること。また卒業後に大学で学んだことを活かしてどのような職業生活を送りたいと考えているかについても明記すること。

②自己推薦書（1,500字以内）【様式2】

自分を推薦する内容と理由について具体的に記述すること。その際に、志望理由書に記述した問題・関心分野について、これまでどのような学習や経験を積んできたかを明記すること。それらの自己推薦書の内容を簡潔に示す表題をつけること。

③添付資料目録・活動報告書および添付資料【様式3・4】

強い問題意識や関心を持つ分野に関する具体的な証書・証明書、マスコミ記事、論文・研究レポート（共同制作の場合は自分の貢献範囲を明記すること）などがある場合は添付すること。

④履歴書【様式7】

■第2次選考 面接試験（約20分）

面接試験の最初に志望理由や学修計画、卒業後の進路などについて5分間程度説明してもらう。

経済学部 「選考のポイント」 K-ENT1、K-ENT2共通

【第1次選考】

提出書類については、経済や経営の現状や歴史に関する、研究・授業・諸活動等の経験を踏まえた問題意識と、また、それに基づいて入学後の4年間でどのような学修を進めたいのか、さらに、その学修を活かして卒業後にいかなる職業生活を送りたいかについて明記する「志望理由書」も、自分を推薦する内容と理由について記述する「自己推薦書」(K-ENT1・K-ENT2)も、ともによく考えて、時間をかけて書くことが大切です。その際、必ず自分自身によって、自分の言葉で書かれていることがポイントです。これらの書類の内容は、第2次選考でも参照され、質問されます。書類の作成には、國學院大學ホームページで公表されている「シラバス（講義内容説明）」はもちろんのこと、書類内容に関連する情報を集めて、十分に考えておく準備をしておきましょう。

K-ENT1の自己推薦課題発表については、受験のきっかけとなった、経済や経営の現状や歴史に関する自己推薦課題の内容を、事前に提出した自己推薦課題シートの内容に沿って発表することがポイントです。決められた時間内で、わかりやすく発表できるように練習しておきましょう。なお、スライド投影による発表は必須ではなく、可否には影響しません。

【第2次選考】

面接では、最初に志望理由や学修計画、卒業後の進路などについて説明してもらいます。はっきりと具体的に、分かりやすく説明することがポイントです。

まず、第1次選考で提出した「志望理由書」と「自己推薦書」の内容に関する質問に対する準備のために、第2次選考までの期間に、関連文献や資料などを丁寧に読み込み、正確な知識を増やしておきましょう。

K-ENT1の面接では、自己推薦課題発表の時に与えた助言点についてどのような対応をしたのかが質問されます。助言点を正確に理解しているか、また、それに対して発表をどう修正したのか、改善したのかについてきちんと説明できるようにしておくことがポイントです。そのために、助言点を手がかりに第1次選考後は、しっかりと勉強しておきましょう。

《 人間開発学部 》 【1】 初等教育学科 【2】 健康体育学科 【3】 子ども支援学科

(1) 募集人員

学 科	募集人員
初等教育学科	12名
健康体育学科	16名
子ども支援学科	12名

(2) 出 願 要 件

【初等教育学科】

本学人間開発学部初等教育学科で学びたいという意欲を強く持ち、自ら学ぼうとする学修意欲及び日本の教育への関心と理解を有し、教育の諸領域における各種問題に関する専門的な知識の修得を目指して「教育の専門家」として小学校教諭を志す意欲の高い者。

【健康体育学科】

本学人間開発学部健康体育学科で学びたいという意欲を強く持ち、「健やかな人生が人々の幸せにつながるという理念」や、「健康保持・増進のための重要な要素である身体運動」、「胎児から寿命を全うするまでの全期間に関わる身体諸機能のあり方」に関心があり、中・高等学校の保健体育教諭、健康やスポーツ分野のリーダーを目指す者。

【子ども支援学科】

本学人間開発学部子ども支援学科で学びたいという意欲を強く持ち、子ども・子育て支援への関心を有し、幼児教育・保育の領域に関する専門的な知識や技術を意欲的に学び、幼稚園教諭・保育士を志す者。

(3) 選 考 方 法

※「出願書類について」
(P. 32～34) を必ず
熟読してください。

【第1次選考】 書類選考

① レポート (2,000字程度) 【様式1】

人の育ちを支援するという観点から自らが目指す将来像について、考えをまとめて記述しなさい。必ず表題をつけること。

② 自己推薦書 (900～1,000字) 【様式2】

③ 添付資料目録・活動報告書および添付資料 【様式3・4】

資格取得や検定試験合格、あるいはスポーツなどで顕著な成績を有している場合には、添付資料目録に記載し、必ず証明書等のコピーを添付すること。

④ エントリーシート 【様式5ー人間開発】

【第2次選考】 ※試験会場は横浜たまプラーザキャンパスになります。

① 小論文試験 (説明を含めて90分、1,000字程度)

試験に関する説明 (10分程度) を受けた後、小論文 (1,000字程度) を作成する。

② 面接試験 (約15分)

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

③ 実技試験 (5分以内) 【子ども支援学科のみ】

子ども向けのパフォーマンス (手遊び・うた・お話・遊戯など) を、その意図について簡単に説明したうえで実演すること。用具が必要な場合は各自持参すること。

なお、本学のピアノ等の使用および電源の提供はできません。

※第2次選考は終日となるため、昼食を持参すること。

人間開発学部 「選考のポイント」

人間開発学部としては、「人間の能力開花、開拓」に関心があり、「幼稚園教諭・保育士、小学校教諭、中学校・高等学校の保健体育教諭、あるいは健康やスポーツ分野のリーダーになりたい」という強い意欲を持つ人に入学して欲しいと考えています。「人間開発」という言葉には、さまざまなストレスやプレッシャーなどにより閉じられたままになっている能力や才能を「弾ける」「拓く」「^{はじ}拡がる」ように引き出し、「開花させる」という意味が込められています。それゆえ生徒や指導の対象となる人の「頑張ることを応援する教育」に向けて積極的に勉強する人の意欲を評価したいと思います。

本学部のこのような目的を達成するために、レポート課題に関連したことを調べ、卒業後の進路を含め、自分の考えをまとめておく必要があります。

【第1次選考】

レポートの作成にあたっては、次の点に留意してください。

- a. 広く書物や文献などを利用して関連する内容について調べること
- b. 論理的な道筋を立てた内容とすること
- c. 読む人にわかりやすく伝わる文章にすること
- d. 自分の経験や考えも含めること
- e. 利用した資料は、書名や著者、発行年月日などがわかるように出典を明確に記載すること

【第2次選考】

小論文試験では、上記のレポートに関する留意点bとcに準じた解答であることが望ましい。面接試験では、学部・学科に対する志向性および学生生活、卒業後の進路について、今後の展望を持っていることが望ましい。子ども支援学科の実技試験では、子どもに向けて伝えようとする工夫と意欲が感じられるものであることが望ましい。

7. 出願書類について

- 出願に必要な書類を全てそろえ、本学所定の出願封筒を使用し、速達・簡易書留で入学課宛に送付してください。
- 様式1～7は、順番にならべ左上所定位置をホチキスでひとまとめに留めて提出してください。記入の際は、ペンまたはボールペンを使用してください（鉛筆書き不可）。
- 全ての書類は出願者本人が作成してください。
- 一度提出した書類および入学検定料は、返還しませんので、ご注意ください。

<提出書類様式および一覧>

学部	学科・専攻		①	②	③	④	⑤		⑥	⑦	⑧	
			所定用紙	各種 証明書	様式1	様式2	様式3・4		様式5	様式6	様式7	
			入学 志願票		様式1 レポート	様式2 自己 推薦書	添付資料目録・ 活動報告書※2	添付 資料	エントリー シート	自己推薦 課題シート	履歴書	在職証明・ 推薦書
文	日本文	I類	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		II類	○	○	○	×	×	×	○	×	×	×
	中国文		○	○	×	○	○	△	×	×	☆	×
	外国語文化※1		○	○	×	○	○	△	×	×	×	×
	史		○	○	○	○	○	△	×	×	×	×
	哲		○	○	○	○	×	×	×	×	×	×
神道文化	神道文化		○	○	○	○	○	△	×	×	×	×
法	法律専攻		○	○	○	×	×	×	○	×	☆	☆
	政治専攻		○	○								
経済 K-ENT1・2	経済		○	○	【志望 理由書】 ○							
	経済ネット ワーキング		○	○		○	○	△	×	★	☆	×
	経営		○	○								
人間開発	初等教育		○	○	○	○	○	△	○	×	×	×
	健康体育		○	○								
	子ども支援		○	○								

○：出願者全員が必ず提出する書類

△：任意提出の書類

☆：社会人の出願者が提出する書類

×：提出不要

★：K-ENT1の出願者のみが提出する書類

※1 外国語文化学科を受験する者で、第2次選考筆記試験の免除を希望する者は、各検定試験の結果を証明する書類を添付すること。詳細はP.14を参照のこと。

※2 この欄が○の学科は、添付資料・活動報告の有無に関わらず提出が必要（P.33を参照）。

① 入学志願票 【本学所定用紙】	「入学志願票記入例」(P. 35～36) を参照してください。 ★入学志願票を全て記入のうえ、入学検定料を振込み、提出してください。	
② 各種証明書	出願前 3 ヶ月以内に発行された書類を提出してください。	
	高等学校（特別支援学校の高等部を含む）又は中等教育学校を卒業した者、及び平成29年3月卒業見込みの者	出身学校長が発行した「調査書」 (学校所定用紙、開封無効)
	高等学校卒業程度認定試験もしくは大学入学資格検定の合格者・合格見込者	「合格証明書」または「合格成績証明書」 (合格見込者は「合格見込成績証明書」)
	外国における12年の課程を修了した者または修了見込者	「修了（見込）証明書」と「成績証明書」 ※日本と外国両方の高等学校に在籍した場合は日本の高等学校在学中の「調査書」も合わせて提出してください。
	その他、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた場合	関係する証明書等を提出してください。なお、必要な証明書については本学入学課（03-5466-0141）へお問い合わせください。
③ レポート (経済学部は志望理由書) 【様式1】	内容・文字数の指定は各学科の該当ページを参照してください。	
④ 自己推薦書 【様式2】	「大学での勉学・研究に対する目的意識と意欲」または「継続的な努力をしている活動内容とそれを大学での学修にどのように役立てられるか」等を自己推薦文として主張してください。内容・文字数の指定は各学科の該当ページを参照してください。なお、必ず表題を付けてください。	
⑤ 添付資料目録・活動報告書 および添付資料 【様式3・4】	※P. 32の＜提出書類様式および一覧＞で、⑤の欄に○がついている学部学科については、添付資料・活動報告がない場合も、【様式3】の太枠線内を記入し、提出してください。 ①特定分野の学修に、興味関心を持つことを示す資料があれば、資料に番号・資料名をつけ、【様式3】の目録を作成してください。 ②【様式3】の裏面は、【様式4・活動報告書】になっています。添付資料に関する説明や、各種活動の内容を記入してください。 ④添付資料は、可能な限りA4サイズに統一してください。A4サイズで提出できない資料は、A4サイズ用の用紙に貼付けてください。 ⑤ビデオ・録音テープを資料として提出する際には、5分以内に編集してください。 ＜添付資料例＞ 創作や研究発表を掲載した雑誌・新聞の切り抜き、写真、活動の成果や記録・各種資格取得証明書等のコピー（A4）など。なお、必ずしも正式なものである必要はありません。 ※外国語文化学科の第2次選考筆記試験の免除を希望する方は、各検定試験の結果を証明する書類を添付してください。詳細はP. 14を参照してください。神道文化学科は、神社・神道系教団と志願者の関係を証明する文書・書類なども資料として扱います。 ※活動内容が職業である場合には、できる限り在職・就業証明書（様式自由）を添付してください。	

(注意⑥～⑧はP. 34参照)

⑥ エントリーシート 【様式 5】	各項目について、簡潔に記入してください。
⑦ 自己推薦課題シート 【様式 6】	自己推薦課題の発表内容について記入してください。
⑧ 履歴書 在職証明・推薦書 【様式 7】	履歴書は高等学校卒業以降、現在までの経歴を漏れなく詳細に記入してください。 法学部については、履歴書と在職証明書は合わせて提出することが望ましいですが、主婦・主夫である場合、または職種やその他の事情により提出ができない場合には、その旨を履歴書に明記し、在職証明書は未記入のまま提出してください。なお、その際は、推薦書に推薦人（本人以外の誰でもよい）の署名・捺印が必要となります。

8. 入学志願票記入例 ※写真票・受験票もこれにならって記入してください。

記入例は、神道文化学科でフレックスコースは「どちらも希望する」を選択したのですが、他の制度・学科を選択した場合もこれにならい、ペンまたはボールペンを使用して各票の太枠内をもれなく記入してください(網かけされている欄は未記入のままで結構です)。なお、提出後の変更は一切認められませんので、ご注意ください。

- ★ 入学志願票を全て記入の上、入学検定料を振込み、出願してください。
- ★ 写真票には写真(縦4cm×横3cm)を、受験票には52円切手を必ず貼付してください。
- ★ 記入を間違えた場合は修正液(ホワイト)を使用しても構いません。但し、入学検定料(振込金額)を訂正する場合は、二重線で消し、その上に銀行等の窓口で訂正印を押してもらい、欄外に正しい金額を記入してください。

志願票

國學院大學(推薦・特別選考)入学志願票

入試制度

出願する試験制度の番号に○を付け、必要事項を記入してください。

1 公募(AO) 経済学部以外	2 公募(AO) K-ENT方式 経済学部 1 2 3	3 スポーツ	4 指定校	5 全商協会	6 社会人	7 神道・宗教	8 神職養成	9 神道学専攻科	10 学士	11 一般編入
12 院友子弟	13 セカンドキャリア	14 別科Ⅰ類	15 別科Ⅱ類	16 集積コード	17 出願種別 1 神道 2 宗教	18 外国人留学生	19 系列・協定校(推薦)	20 系列校(選抜)	21 系列編入	

志望コード 活動コード
C 4 /

【公募(AO)】 1:Ⅰ類 日本文学 2:Ⅱ類

【公募(AO)】第1次選考免除[法律学科・中国文学科] 1:希望する 2:希望しない

【公募(AO)】院友子弟 第2次選考筆記試験免除(外国語文化学科)

日本留学試験受験番号

※記入例に従って該当欄に記入してください。(選択項目には該当するものに○を付けてください。)

志願データ

受験番号	※
入試コード	D 1 4 A
学部・学科	文 日本文・中国文・外国語文化・史・哲 神道文化 神道文化 法・法律 法律専攻・政治専攻 経済 経済・経済ネットワーク・経営 人間開発 初等教育・健康体育・子ども支援 神道学専攻科・別科神道専攻Ⅰ類・別科神道専攻Ⅱ類
コース	① どちらも希望する 2 フレックスA(夜間主)のみ 3 フレックスB(昼間主)のみ
カナ	ワカキ ショウ
氏名	漢字 若木 翔
性別	① 男 2 女
生年月日	19980506
自宅電話	045-904-7700
携帯電話	080-9999-9999
志願者住所	神奈川県横浜市青葉区新石川3-22-1 〒225-0003
出身高等学校等	國學院 13550A 1 1 201703

●ボールペンを使用して記入してください。間違えた場合は修正液を使用しても構いません。但し、入学検定料(振込金額)を訂正する場合は、二重線で消し、その上に銀行で訂正印を押してもらい、欄外に正しい金額を記入してください。

●振込金額は、入試制度によって異なりますので、必ず事項でご確認ください。

●ATMからの振り込みはできません。必ず銀行等金融機関の窓口で手続きを行ってください。

●取扱店の収納印が無いものは無効です。

個人情報取り扱い確認欄

入学検定料(振込金額)

¥35000

収納印 ①/4 入学検定料

【年号対照表】

西暦	和暦
1970	昭和45
1975	50
1980	55
1985	60
1986	61
1987	62
1988	63
1989	平成元
1990	2
1991	3
1992	4
1993	5
1994	6
1995	7
1996	8
1997	9
1998	10
1999	11
2000	12
2001	13
2002	14
2003	15
2004	16
2005	17
2006	18
2007	19
2008	20
2009	21
2010	22
2011	23
2012	24
2013	25
2014	26
2015	27
2016	28
2017	29

(1) 記入上の注意

- ① 氏名は常用漢字を使用し、楷書で記入してください。
- ② カナ氏名は、濁点・半濁点も1文字として記入してください。
- ③ 選択項目(入試制度・学部・学科・専攻・コース・性別等)は該当するものに○を付けてください。
- ④ 生年月日・卒業年月は必ず西暦で記入し、月日が1桁の場合は、その数字の前に「0」を入れ、2桁で記入してください。
- ⑤ 住所は結果通知等の送付先となるので、アパート・マンション名まで正確に記入してください(丁目・番地・号は「-」で記入してください)。
- ⑥ 電話番号は市外局番・局番・加入番号それぞれの間を「-」で区切って記入してください。

(2) 各種コード一覧

学 科 ・ 専 攻 ・ コ ー ス		入試コード	業 種 コ ー ド	
日本文学科		D 1 1 A	01	農・林・漁業・鉱業
中国文学科		D 1 1 E	02	建設業
外国語文化学科		D 1 1 F	03	製造業
史学科		D 1 1 B	04	電気・ガス業
哲学科		D 1 1 D	05	運輸・通信業
神道文化学科	フレックス A (夜間主)	D 1 4 A	06	商業
	フレックス B (昼間主)		07	金融・保険業
法律学科	法律専攻	D 1 2 A	08	不動産業
	政治専攻	D 1 2 C	09	教員
経済学科		D 1 3 A	10	報道・出版・広告
経済ネットワークキング学科		D 1 3 B	11	ホテル・観光・レジャー
経営学科		D 1 3 C	12	医療・保健機関
初等教育学科		D 1 5 A	13	研究・調査機関
健康体育学科		D 1 5 B	14	社会福祉機関
子ども支援学科		D 1 5 C	15	教育機関 (09を除く職員等)
			16	国家公務員
			17	地方公務員 (教員を除く)
			18	主婦・主夫
			19	アルバイト
			98	無職
			99	その他

※中国文学科・法学部・経済学部は、公募制自己推薦(AO型)として実施します。

高等学校等 コード	高等学校等の進路指導部または本学入学課(03-5466-0141)へお問い合わせ いただくか、本学ホームページでご確認ください。 ※大学入試センター試験のコードと同様です。
--------------	--

課程コード	課程	全日制	定時制	通信制	その他
	コード	1	2	3	9

学科コード	学科	普通	商業	工業	農業	英語	総合	その他
	コード	1	2	3	4	5	6	9

志望コード			日本文学・中国文学・外国語文化・史学・神道文化志願者は、指定された 出願要件（志望項目）の中から、主として志望するもの1つを選択し、入学志願票の「志 望・活動コード」欄に記入してください。また、 <u>経済学部志願者</u> は出願するコースを入学 志願票の「志望・活動コード」欄に記入してください。 ※哲学部、法学部、人間開発学部は記入不要。	
			志 望 項 目 ・ 出 願 コ ー ス	
学 科	コ ー ド			
	I 類	II 類		
日 本 文	C 71	C 31	日本古典文学の学問・研究	
	C 72	C 32	日本近現代文学の学問・研究	
	C 73	C 33	日本語（古代語・現代語・方言など）の学問・研究	
	C 74	C 34	伝承文学（民俗学、口承文芸、祭礼・芸能など）の学問・研究	
	C 75	C 35	書道に関する学問・研究	
中 国 文	C 61		中国古典の学修・研究	
	C 62		中国近現代文学の学修・研究	
	C 63		中国文化の学修・研究	
	C 64		教職を目指しての専門分野の学修・研究	
外 国 語 文 化	C 36		2外国語（英語および独・仏・中3カ国語のいずれか）についての学修・研究	
	C 37		外国語によるコミュニケーションや言語文化についての学修・研究	
	C 38		英語・独語・仏語・中国語圏の文化についての学修・研究	
	C 39		外国語による日本文化の発信活動	
史	C 51		日本史学に関する学修・研究	
	C 52		外国史学（東洋史学）に関する学修・研究	
	C 53		外国史学（西洋史学）に関する学修・研究	
	C 54		考古学に関する学修・研究	
	C 55		地域文化と景観に関する学修・研究	
神 道 文 化	C 41		古代の神道史・神社の学修・研究	
	C 42		近世・近代の神道思想や制度の学修・研究	
	C 43		祭式・神社実務の学修・研究	
	C 44		宗教・宗教文化の学修・研究	
	C 45		比較宗教文化・国際化の学修・研究	
	C 46		現代社会と宗教、宗教理論の学修・研究	
経 済 学 部	K 01		K-ENT1 [自己推薦課題発表コース]	
	K 02		K-ENT2 [得意分野・得意教科コース]	

9. 入学検定料

(1) 入学検定料の振込について

入学検定料	35,000円
-------	---------

※出願開始日よりお振り込みください。

- ① 入学志願票に必要事項を全て記入した後、出願期限に間に合うように最寄りの銀行または信用金庫等の窓口（銀行等のATM・ゆうちょ銀行は利用できません）から本学が指定する銀行口座へ振込んでください。
 - ・振込依頼書は入学志願票と一連になっていますので、必要事項を記入のうえ、切り離さずに銀行等取扱店へお持ちください。
 - ・本学が指定する銀行（下記⑥参照）の各本支店から振込む際の手数料は不要ですが、その他の金融機関から振込む場合には本人負担となります。
- ② 振込終了後、「振込依頼書」は取扱店によって切り取られます。それ以外の収納印欄全てに取扱店の収納印が押されていることを必ず確認してください。
- ③ 「本人保存」は領収書となりますので、各自切り取って保管してください。
- ④ 出願の際には「志願票・写真票・受験票」を切り離さず、その他の出願書類とともに入学課宛に送付してください（詳細はP. 32～34をご参照ください）。
- ⑤ 一度納入された入学検定料は、返還しませんので、ご注意ください。
- ⑥ 本学が指定する銀行口座は下記のとおりです。

みずほ銀行	渋谷中央支店	普通	No.1391131	三菱東京UFJ銀行	渋谷中央支店	普通	No.0128169
三井住友銀行	渋谷支店	普通	No.8195674	りそな銀行	渋谷支店	普通	No.0093868

※ ご不明な点は、入学検定料を振込む前に、入学課（03-5466-0141）までお問い合わせください。

(2) 大規模災害等にかかる平成29年度入学志願者に対する特別措置について

1. 対象者

災害救助法適用地域に主たる家計支持者が居住もしくは勤務し、被災した世帯の志願者

2. 入学検定料について

免除

3. 申請方法

出願書類とともに以下の2点を提出（同封）してください。

①大規模災害に伴う入学検定料特別措置申請書（最終頁）

②公的機関が発行する「罹災証明書」(写し可)

注1. 書類に不備があった場合は入学検定料の免除の対象となりませんのでご注意ください。

注2. 公的機関が発行する罹災証明書を取得された方は金融機関で検定料を納める必要はありません。

注3. 出願後の申請は一切認めません。

10. 学費等納付金

(1) 学費等納付金について

平成28年度参考。なお金額については変更となる場合があります。

(単位：円)

学 部 別		文・神道文化・法・経済・人間開発学部		
費 目	納 期	全 納 (年額)	分 納	
			入学手続時	9 月 (後期分)
学 費	入 学 金	260,000	260,000	
	授 業 料	700,000	350,000	350,000
	施設設備費	201,000	100,500	100,500
	維持運営費	10,000	10,000	
	小 計	1,171,000	720,500	450,500
諸 費	若木育成会費	29,000	29,000	
	若木学友会入会金	1,000	1,000	
	若木学友会費	5,300	5,300	
	院友会 (同窓会) 入会金	10,000	10,000	
	文学部・神道文化学部：國學院雑誌代	2,000	2,000	
	法学部：國學院法学代	3,000	3,000	
	経済学部：経済学会費	2,000	2,000	
	人間開発学部：人間開発学会費	3,000	3,000	
	小 計	文 学 部	47,300	47,300
		神 道 文 化 学 部	47,300	47,300
		法 学 部	48,300	48,300
		経 済 学 部	47,300	47,300
		人 間 開 発 学 部	48,300	48,300
合 計	文 学 部 神 道 文 化 学 部 経 済 学 部	1,218,300	767,800	450,500
			1,218,300	
	法 学 部 人 間 開 発 学 部	1,219,300	768,800	450,500
			1,219,300	

- 備考 1. 教員免許等各種資格の取得を希望する場合は、上記以外に別途費用が必要となります。
2. 上表のうち、國學院雑誌代 (文学部・神道文化学部) については消費税分を含んだ金額となっております。
3. 文学部中国文学科入学者は、中国学会費2,000円が諸費に加算されます。
4. 分納した場合は、夏休み中 (8月上旬) に後期分の振込用紙を保証人 (ご父母) 宛に送付します。
5. 入学後の学費等納付については、毎年4月に振込用紙を保証人 (ご父母) 宛に送付します。

(2) フレックスコースの学費等納付金について (神道文化学部)

フレックス開講制のいずれのコースに入学しても学費等納付金は同額です。ただし、フレックスA (夜間主) コースの在籍生を対象に、月～金曜日の5～7時限及び土曜日1～7時限の科目のみで授業を履修し、本学の定める出願資格を満たした学生に、40万円を給付する制度「フレックス特別給付奨学金」を設けています。**有資格者は入学後所定の期間に出願手続をしてください。**詳細は学生生活課 (03-5466-0146) にお問い合わせください。

※この奨学金を希望する場合には、**出願時に必ず「フレックスA (夜間主) コース」を選択してください。**

【入学手続完了後の辞退について】

入学手続を完了した後にやむを得ない事由により、入学を辞退する場合、平成29年3月31日 (金) 17時までまでに所定の申請手続を終えた方には、入学金を除く授業料等納付金を返還いたします。なお、詳細は『入学手続方法』に記載します。

【國學院大學教育充実資金 (維持費) について】

本学教学内容の維持・充実をはかるため、新入生の保証人 (ご父母) 各位に國學院大學教育充実資金 (1口20万円) のご寄付をお願いしております。入学後の4月にご案内をいたしますので、ぜひ1口以上のご協力をお願い申し上げます。

※本学では入学前 (3月まで) の募金活動は行っておりません。

11. 入学前学習講座

國學院大學では、推薦・特別選考入学試験による入学者を対象に、合格発表から入学までの期間で「入学前学習講座」を実施しております。

この講座では、早期に実施される推薦・特別選考入学試験から入学までの期間において、学修機会を設けることで、入学後の学修がスムーズなものとなるよう実施しております。受講される場合は受講料を別途ご納入いただくこととはなりますが、本講座の趣旨をご理解いただき、積極的な受講をいただくようお願い申し上げます。

なお、申し込み方法等の詳細については、合格発表時に送付する入学手続き書類にてご案内いたします。

1・実施期間：平成28年12月下旬～平成29年3月

2・内容：国語・英語（予定）

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

レポ ー ト（※経済学部は志望理由書）				入 試 コード	D	1		
学 部		フリガナ						
学科・専攻		氏 名						
		（Ⅰ類・Ⅱ類）← 日本文は いずれか○						
表 題								
（題目・書名など）								

(注意) 字数は出願先(学部・学科)の該当ページで必ず確認してください。

[illegible]

キ
リ
ト
リ

200▲

400▲

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

▲3000

注 (参考文献)	この欄は、志望学科のページを確認し、必要に応じて記入すること。
-------------	---------------------------------

自己推薦書

D

1

学 部		フリガナ	
学 科		氏 名	
表 題			

[illegible]

キ
リ
ト
リ

200▲

400▲

600▲

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

添 付 資 料 目 録				入 試 コード	D	1			
学 部		フリガナ		添付資料の有無					
学 科		氏 名		○をつけてください 有 ・ 無					

添付資料 番号	資 料 名
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

*添付資料が10点を超える場合はこの【様式3】をコピーして使用してください。なお、該当する学科については添付資料のない方も本様式の太枠部分を記入し、必ず提出してください（P.32を参照）。

【外国語文化学科を受験する者】

第2次選考筆記試験の免除を希望しますか？

[希望する ・ 希望しない] (○を付けてください)

(免除を希望する方は、各検定試験の結果を証明する書類を添付してください。詳細はP.14を参照してください。)

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

活動報告書

※添付資料に関する説明
や活動等の内容を記入
してください。

[illegible]

▲200

▲400

▲600

▲800

キ
リ
ト
リ

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

エントリーシート		日本文学科〔Ⅱ類〕のみ提出
日本文学科〔Ⅱ類〕	フリガナ	
	氏 名	

これまで読んだ本の中で、最も印象に残っているものをあげ、その理由を書いてください。

自分について、評価してほしいところ（性格・特技・課外活動など）を書いてください。

大学卒業後の目標と、目標達成のための方法（計画）について、できるだけ具体的に書いてください。

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

エントリーシート				法学部のみ提出
法学部	法律専攻		フリガナ	
	政治専攻		氏 名	

↑ 志願する専攻に○を付けてください。

志願理由について	あなたが國學院大學法学部法律専攻または政治専攻を志願する理由を書いてください。 ＊その際には、以下の３点を含ませてください。 ・あなたが法学や政治学を学ぶ目的 ・國學院大學法学部法律専攻または政治専攻があなたに適していると思った理由 ・法律専攻または政治専攻の授業にどのように取り組んでいこうと考えているか
----------	---

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

あなた自身のことについて	あなた自身について、積極的に評価してほしいことを書いてください。 ＊これまで取り組んできた活動などの「具体的事実」、あなたや他人が捉えている「あなたの性格」などが一つのストーリーとして結びつけられている記述に挑戦してください。
社会への関心	あなたが現在（ALTレポートのテーマ以外に）、最も関心を持っている社会的出来事を一点挙げ、それに関してどのようなことを調べ、現在どのような考えを持っているか、書いてください。

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

エントリーシート				人間開発学部のみ提出	
人間開発学部	初等教育学科		フリガナ		
	健康体育学科		氏 名		
	子ども支援学科				

↑ 志願する学科に○を付けてください。

志願理由等について	國學院大學・学部選択の理由
	学科選択の理由
	将来の目標
	大学に期待すること
	社会に「人間開発」が必要であると思う理由
	「人間開発」または人づくりのイメージをひとつの熟語で表すとしたらなにになるか

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

あなた自身のことについて	「個性的」とはどういうことだと思うか
	自分の個性だと思うこと
	自分について最も評価してほしいところ（他人に誇れる性格、特技、経験など）
	持続的に取り組んできたと自信をもって言える活動とその期間
	ボランティア活動をするとしたらどのような活動をするか
最近の活動について	最近読んだ本のなかで、是非、他人に薦めたいと思うものとその理由
	最近気になっている社会的問題とその理由
	最近あなたが最も努力したと言えること

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

自己推薦課題シート				経済学部 (K-ENT1)のみ提出	
経済学部	経済学科		フリガナ		
	経済ネットワーク学科		氏 名		
	経営学科				

↑志望する学科に○をしてください(併願はできません)。

自己推薦課題の 表題	
---------------	--

1. 自己推薦課題発表の概要

200▲																			
400▲																			

キ
リ
ト
リ

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

2. 発表でもっとも力点をおきたいことを記入すること

3. 発表で最も工夫したいことを記入すること

4. 発表にあたって質問があれば記入すること

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

履 歴 書 在職証明・推薦書				
学 部		フリガナ		生 年 月 日
学科・専攻		氏 名		(西暦)
				年 月 日生
				(満 歳)

履 歴 書		
年	月	学歴・職歴など（項目別に記入すること）

↓ 以下は法学部の社会人の出願者のみ記載が必要となります。

在 職 証 明

勤務先名		所在地	〒 -
在職期間	年 月 ～ 現在 年 ヶ月勤務		Tel - -

推 薦 書

推薦者氏名		本人との関係 (続 柄)	
推薦理由			

(別 紙)

(大学記入欄)

整理番号

平成 年 月 日

國學院大學学長 殿

大規模災害に伴う入学検定料特別措置申請書

平成29年度入学試験の受験に際し、入学検定料特別措置の申請をいたします。

志 願 者	フリガナ氏名	⑩
	現住所	〒 ー 電話

保護者(現家計支持者)	フリガナ氏名	⑩
	現住所	〒 ー 電話

被災原因	※罹災証明書記載の原因を記入してください。
------	-----------------------

- 被災状況（以下の項目から該当するものを○で囲んでください。）
- 1 被災当時の家計支持者の死亡
 - 2 被災当時の家計支持者が居住する家屋の（ 全壊 ・ 全焼 ・ 流失 ）
 - 3 被災当時の家計支持者が居住する家屋の（ 半壊 ・ 半焼 ・ 一部損壊 ）
 - 4 その他（ ）
- (注)
- 1. 「罹災証明書」（写し可）と合わせ、出願時に提出してください（出願後の提出不可）。
 - 2. 特別措置申請書は必ず志願者及び保護者捺印のうえ、提出してください（複写は不可）。

